

7章. 道路舗装

① 路盤工

1. 適用範囲

本資料は、アスファルト舗装工事の路盤工(瀝青安定処理路盤を含む。)に適用する。

1-1 適用できる範囲

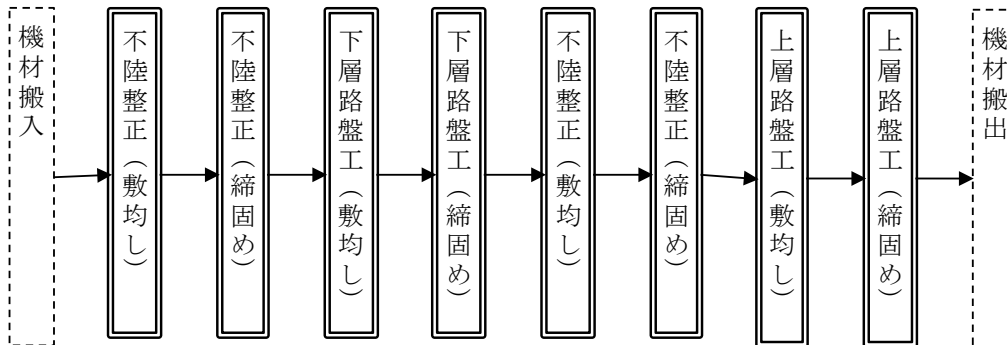
- (1) 路盤・路床面等の不陸整正
- (2) 一層当たりの仕上り厚さが 20cm までの下層路盤
- (3) 一層当たりの仕上り厚さが 15cm まで(瀝青安定処理路盤の場合は 10cm まで)の上層路盤
- (4) 舗装構成が車道部と同じ場合の路肩部の路盤

1-2 適用できない範囲

- (1) 瀝青安定処理路盤の締固め後密度 2.30t/m³未満、2.40t/m³以上の場合
- (2) 歩道部の不陸整正

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 不陸整正(敷均し・締固め)は、必要に応じて計上する。
3. 下層路盤工(下層路盤(車道部・路肩部)、下層路盤(歩道部))は、凍上抑制層の施工にも適用する。
4. 現道における情報ボックス工事、路盤の部分的な補修工事等は、歩道部を適用する。

3. 施工パッケージ

3-1 不陸整正

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 不陸整正 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料
無し	—	—
有り	(表 3. 2)	(表 3. 3)

(注) 1. 上表は、路盤・路床面等の不陸整正(補足材料がある場合も含む。)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含む。

2. 補足材料の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.27)

表 3. 2 補足材料平均厚さ

積算条件	区分
補足材料平均厚さ	1mm 以上 3mm 未満
	3mm 以上 6mm 未満
	6mm 以上 9mm 未満
	9mm 以上 13mm 未満
	13mm 以上 17mm 未満
	17mm 以上 21mm 未満
	21mm 以上 25mm 未満
	25mm 以上 29mm 未満
	29mm 以上 34mm 未満
	34mm 以上 39mm 未満
	39mm 以上 44mm 未満
	44mm 以上 49mm 未満
	49mm 以上 55mm 未満
	55mm 以上 61mm 未満
	61mm 以上 67mm 未満
67mm 以上 75mm 未満	

表 3. 3 補足材料

積算条件	区分
補足材料	クラッシュラン C-20
	クラッシュラン C-30
	クラッシュラン C-40
	再生クラッシュラン RC-20
	再生クラッシュラン RC-30
	再生クラッシュラン RC-40
	再生粒度調整砕石 RM-25
	再生粒度調整砕石 RM-30
	再生粒度調整砕石 RM-40
	粒度調整砕石 M-25
	粒度調整砕石 M-30
	粒度調整砕石 M-40
	補足材料(各種)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージ使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 4 不陸整正 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 モータグレーダ [土工用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] ブレード幅 3.1m	
	K2 ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 10t 締固め幅 2.1m	
	K3 タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 8~20t	賃料
労務	R1 運転手 (特殊)	
	R2 特殊作業員	
	R3 普通作業員	
	R4 土木一般世話役	
材料	Z1 軽油 パトロール給油	
	Z2 再生クラッシュラン RC-40	補足材料有りの場合
	Z3 -	
	Z4 -	
市場単価	S -	

3-2 下層路盤(車道・路肩部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 5 下層路盤(車道・路肩部) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

全仕上り厚	施工区分	材料
実数入力	1 層施工	(表 3.6)
	2 層施工	
	3 層施工	
	4 層施工	
	5 層施工	
	6 層施工	

(注) 1. 上表は、車道部及び路肩部の下層路盤(凍上抑制層がある場合も含む。)の路盤材敷均し・締固めのほか、散水、タンパ・ランマによる締固め補助、小型バックホウ及び振動ローラによる補助作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含む。

2. 施工区分は、一層当たりの仕上り厚を20cmとして施工層数を算出し、決定する。なお、施工層数は小数点以下を切り上げるものとする。

(例：全仕上り厚が500mmの場合 500mm÷200mm=2.5→3層施工)

3. 路盤材の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.27)

表 3. 6 材料

設計条件	区分
材料	クラッシュラン C-20
	クラッシュラン C-30
	クラッシュラン C-40
	再生クラッシュラン RC-20
	再生クラッシュラン RC-30
	再生クラッシュラン RC-40
	路盤材(各種)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 7 下層路盤(車道・路肩部) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	モータグレーダ [土工用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] ブレード幅 3.1m	
	K2	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 10t 締固め幅 2.1m	
	K3	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 8~20t	賃料
労務	R1	特殊作業員	
	R2	運転手 (特殊)	
	R3	普通作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	クラッシュラン C-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 下層路盤(歩道部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 8 下層路盤(歩道部) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

全仕上り厚	施工区分	材料
実数入力	1 層施工	(表 3. 9)
	2 層施工	
	3 層施工	

(注) 1. 上表は、歩道部の下層路盤の路盤材敷均し・締固めのほか、散水、タンパ・ランマによる締固め補助等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含む。

2. 施工区分は、一層当たりの仕上り厚を 20cm として施工層数を算出し、決定する。なお、施工層数は小数点以下を切り上げるものとする。

(例：全仕上り厚が 300mm の場合 300mm→;200mm-1.5→2 層施工)

3. 路盤材の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.27)

表 3. 9 材料

設計条件	区分
材料	クラッシュアレン C-20
	クラッシュアレン C-30
	クラッシュアレン C-40
	再生クラッシュアレン RC-20
	再生クラッシュアレン RC-30
	再生クラッシュアレン RC-40
	路盤材(各種)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 10 下層路盤(歩道部) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.11 m ³ (平積 0.08 m ³)	賃料
	K2	振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型(第1次基準値)] 質量 3~4 t	賃料
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 上層路盤(車道・路肩部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 11 上層路盤(車道・路肩部) 積算条件区分一覧

(積算単位：㎡)

材料	平均幅員	1層当たり 平均仕上り厚	平均厚さ 全仕上り厚	施工区分	瀝青材料種類
(表 3.12)	1.4m 未満 (1層当たり平均仕上り厚 50mm 以下)	実数入力			(表 3.14)
	1.4m 未満 (1層当たり平均仕上り厚 50mm を超え 100mm 以下)				
	1.4m 以上 3.0m 以下				
	3.0m 超				
(表 3.13)	3.0m 超		実数入力	1層施工 2層施工 3層施工	

- (注) 1. 上表で材料が瀝青安定処理材の場合、アスファルト混合物敷均し・締固め、アスファルト乳剤散布のほか、砂の散布、舗装用器具、補助機械、型枠材料、加熱燃料、瀝青材飛散保護等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含む。
2. 上表で材料が粒度調整碎石の場合、路盤材敷均し・締固めのほか、散水、タンパ・ランマによる締固め補助、小型バックホウ及び振動ローラによる補助作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含む。
3. 施工区分は、一層当たりの仕上り厚を 15cm として施工層数を算出し、決定する。なお、施工層数は小数点以下を切り上げるものとする。
(例：全仕上り厚が 400mm の場合 $400\text{mm} \div 150\text{mm} = 2.66\cdots \rightarrow 3$ 層施工)
4. 路盤材及びアスファルト混合物の材料ロスを含む。標準ロス率は、路盤材が +0.27、アスファルト混合物が +0.07 とする。
5. 瀝青安定処理材は一層分の施工となっており、複数層を施工する場合は、本施工パッケージを層数分計上する。

表 3. 12 瀝青安定処理材種類

積算条件	区分	標準締固め後密度 (t/m^3)
材料	瀝青安定処理材(25)	2.35
	瀝青安定処理材(30)	〃
	瀝青安定処理材(40)	〃
	再生瀝青安定処理材(40)	〃
	路盤材(各種)	2.30 以上～2.40 未満

表 3. 13 粒度調整砕石種類

積算条件	区分
材料	再生粒度調整砕石 RM-25
	再生粒度調整砕石 RM-30
	再生粒度調整砕石 RM-40
	粒度調整砕石 M-25
	粒度調整砕石 M-30
	粒度調整砕石 M-40
	路盤材(各種)

表 3. 14 瀝青材料種類

積算条件	区分
瀝青材料種類	タックコート PK-4
	プライムコート PK-3
	タックコート (各種)
	プライムコート (各種)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 15 上層路盤(車道・路肩部) 代表機労材規格一覧

材料	平均幅員	項目		代表機労材規格	備考
瀝青安定処理	1.4m 未満	機械	K1	振動ローラ(舗装用)[ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t	
			K2	振動コンパクタ [前進型] 機械質量 40~60 k g	
			K3	—	
		労務	R1	特殊作業員	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40)	
			Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコー トの場合
				アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコート の場合
	Z3		ガソリン レギュラー スタンド		
	Z4	軽油 パトロール給油			
	市場単 価	S	—		
	1.4m 以上 3.0m 以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・低騒音型・排出ガス 対策型 (2014 年規制)] 舗装幅 1.4~3.0m	賃料
			K2	振動ローラ [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対 策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t	賃料
			K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次 基準値)] 運転質量 3~4t	賃料
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	運転手 (特殊)	
			R4	土木一般世話役	
材料		Z1	アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40)		
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコー トの場合	
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコート の場合	
Z3	軽油 パトロール給油				

3.0m 超	市場単 価	Z4	—		
		S	—		
	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m	賃料	
		K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 10t 締固め幅 2.1m	賃料	
		K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011 年規制)] 運転質量 13t	賃料	
	労務	R1	普通作業員		
		R2	特殊作業員		
		R3	運転手 (特殊)		
		R4	土木一般世話役		
	材料	Z1	アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40)		
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコー トの場合	
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコート の場合	
		Z3	軽油 パトロール給油		
		Z4	—		
	市場単価	S	—		
	粒度調 整碎石	機械	K1	モータグレーダ [土工用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] ブレード幅 3.1m	
			K2	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 10t 締固め幅 2.1m	
K3			タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 8~20t	賃料	
労務		R1	運転手 (特殊)		
		R2	特殊作業員		
		R3	普通作業員		
		R4	土木一般世話役		
材料		Z1	再生粒度調整碎石 RM-40		
		Z2	軽油 パトロール給油		
		Z3	—		
		Z4	—		
市場単価		S	—		

3-5 上層路盤(歩道部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 16 上層路盤(歩道部) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

平均厚さ全仕上り厚	施工区分	材料
実数入力	1 層施工	(表 3.17)
	2 層施工	
	3 層施工	

(注) 1. 上表は、歩道部の上層路盤の路盤材敷均し・締固めのほか、散水、タンパ・ランマによる締固め補助等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含む。

2. 施工区分は、一層当たりの仕上り厚を 15cm として施工層数を算出し、決定する。

なお、施工層数は小数点以下を切り上げるものとする。

(例：全仕上り厚が 200mm の場合 $200\text{mm} \div 150\text{mm} = 1.33\cdots \rightarrow 2$ 層施工)

3. 路盤材の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.27)

表 3. 17 材料

設計条件	区分
材料	再生粒度調整碎石 RM-25
	再生粒度調整碎石 RM-30
	再生粒度調整碎石 RM-40
	粒度調整碎石 M-25
	粒度調整碎石 M-30
	粒度調整碎石 M-40
	路盤材(各種)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 18 上層路盤(歩道部) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.11 m ³ （平積 0.08 m ³ ）	賃料
	K2	振動ローラ（舗装用）〔搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 運転質量 3～4 t	賃料
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手（特殊）	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	再生粒度調整砕石 RM-30	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

② 路 盤 工 (ICT)

1. 適 用 範 囲

本資料は、ICTによるアスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工（瀝青安定処理路盤を除く。）に適用する。

1-1 適用できる範囲

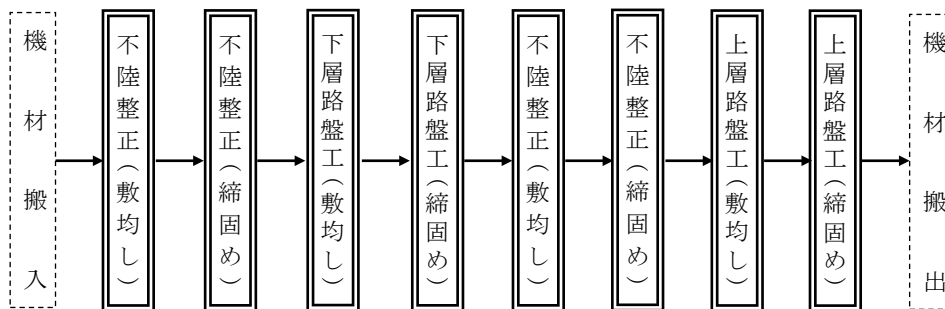
- (1) 3D-MCモータグレーダによる新設道路の車道部の施工
- (2) 3D-MCモータグレーダによる路盤・路床面等の不陸整正
- (3) 3D-MCモータグレーダによる一層当たりの仕上り厚さが20cmまでの下層路盤
- (4) 3D-MCモータグレーダによる一層当たりの仕上り厚さが15cmまでの上層路盤
- (5) 3D-MCモータグレーダによる舗装構成が車道部と同じ場合の路肩部の路盤

1-2 適用できない範囲

- (1) 3D-MCモータグレーダ以外による施工
- (2) 供用部で通行規制を伴う車道部の施工
- (3) 歩道部の施工

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 不陸整正（敷均し・締固め）は、必要に応じて計上する。

3. 下層路盤工（下層路盤（車道・路肩部）（ICT））は、凍上抑制層の施工にも適用する。

3. 施工パッケージ

3-1 不陸整正 (ICT)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 不陸整正 (ICT) 積算条件区分一覧

(積算単位：㎡)

補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料
無し	—	—
有り	(表3.2)	(表3.3)

(注) 1. 上表は、路盤・路床面等の不陸整正 (補足材料がある場合も含む。) 等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む。) を含む。

2. 補足材料の材料ロスを含む。(標準ロス率+0.27)

表3.2 補足材料平均厚さ

積算条件	区分
補足材料平均厚さ	1mm以上3mm未満
	3mm以上6mm未満
	6mm以上9mm未満
	9mm以上13mm未満
	13mm以上17mm未満
	17mm以上21mm未満
	21mm以上25mm未満
	25mm以上29mm未満
	29mm以上34mm未満
	34mm以上39mm未満
	39mm以上44mm未満
	44mm以上49mm未満
	49mm以上55mm未満
	55mm以上61mm未満
	61mm以上67mm未満
	67mm以上75mm未満

表3.3 補足材料

積算条件	区分
補足材料	クラッシュラン C-20
	クラッシュラン C-30
	クラッシュラン C-40
	再生クラッシュラン RC-20
	再生クラッシュラン RC-30
	再生クラッシュラン RC-40
	再生粒度調整碎石 RM-25
	再生粒度調整碎石 RM-30
	再生粒度調整碎石 RM-40
	粒度調整碎石 M-25
	粒度調整碎石 M-30
	粒度調整碎石 M-40
	補足材料(各種)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 不陸整正(ICT) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K 1	ICT建設機械経費賃料加算額 (モータグレーダ)	賃料
	K 2	モータグレーダ [土工用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] ブレード幅3.1m	賃料
	K 3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量10t 締固め幅2.1m	賃料
労務	R 1	運転手 (特殊)	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油1.2号 バトロール給油	
	Z 2	再生クラッシュラン RC-40	補足材料有りの場合
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

(注) ICT建設機械経費賃料加算額 (モータグレーダ) は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

3-2 下層路盤（車道・路肩部）（ICT）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 下層路盤(車道・路肩部)(ICT) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

全仕上り厚	施工区分	材料
実数入力	1層施工	(表3.6)
	2層施工	
	3層施工	
	4層施工	
	5層施工	
	6層施工	

(注) 1. 上表は、車道部及び路肩部の下層路盤（凍上抑制層がある場合も含む。）の路盤材敷均し・締固めのほか、散水等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む。）を含む。

2. 施工区分は、一層当たりの仕上り厚を20cmとして施工層数を算出し、決定する。
 なお、施工層数は小数点以下を切り上げるものとする。

(例：全仕上り厚が500mmの場合 $500\text{mm} \div 200\text{mm} = 2.5 \rightarrow 3$ 層施工)

3. 路盤材の材料ロスを含む。（標準ロス率+0.27）

表3.6 材料

積算条件	区分
材料	クラッシュラン C-20
	クラッシュラン C-30
	クラッシュラン C-40
	再生クラッシュラン RC-20
	再生クラッシュラン RC-30
	再生クラッシュラン RC-40
	路盤材（各種）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.7 下層路盤(車道・路肩部)(ICT) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K 1	I C T建設機械経費賃料加算額 (モータグレーダ)	賃料
	K 2	モータグレーダ [土工用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] ブレード幅3.1m	賃料
	K 3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量10t 締固め幅2.1m	賃料
労務	R 1	運転手 (特殊)	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	クラッシュラン C-40	
	Z 2	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

(注) I C T建設機械経費賃料加算額 (モータグレーダ) は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

3-3 上層路盤（車道・路肩部）（ICT）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.8 上層路盤(車道・路肩部)(ICT) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

全仕上り厚	施工区分	材料
実数入力	1層施工	(表3.9)
	2層施工	
	3層施工	

- (注) 1. 上表は、上層路盤（車道・路肩部）の路盤材敷均し・締固めのほか、散水等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む。）を含む。
2. 施工区分は、一層当たりの仕上り厚を15cmとして施工層数を算出し、決定する。
 なお、施工層数は小数点以下を切り上げるものとする。
 (例：全仕上り厚が400mmの場合 $400\text{mm} \div 150\text{mm} = 2.66\cdots \rightarrow 3$ 層施工)
3. 路盤材の材料ロスを含む。(標準ロス率+0.27)

表3.9 材料

積算条件	区分
材料	再生粒度調整碎石 RM-25
	再生粒度調整碎石 RM-30
	再生粒度調整碎石 RM-40
	粒度調整碎石 M-25
	粒度調整碎石 M-30
	粒度調整碎石 M-40
	路盤材(各種)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.10 上層路盤(車道・路肩部)(ICT) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K 1	I C T建設機械経費賃料加算額 (モータグレーダ)	賃料
	K 2	モータグレーダ [土工用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] ブレード幅3.1m	賃料
	K 3	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量10t 締固め幅2.1m	賃料
労務	R 1	運転手 (特殊)	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	再生粒度調整砕石 RM-40	
	Z 2	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

(注) I C T建設機械経費賃料加算額 (モータグレーダ) は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

4. ICT建設機械経費加算額

4-1 ICT建設機械経費賃料加算額

建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用は、以下のとおりとする。

- (1) ICT建設機械経費賃料加算額（モータグレーダ）
49,000円/日

5. その他ICT建設機械経費等

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。

5-1 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

- (1) 不陸整正（ICT）、下層路盤（車道・路肩部）（ICT）、上層路盤（車道・路肩部）（ICT）

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.18(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量}(\text{m}^2) \times \text{層数}}{\text{作業日当たり標準作業量}(\text{m}^2/\text{日} \cdot \text{層})}$$

(注) 作業日当たり標準作業量は「第I編第14章その他④作業日当たり標準作業量」による。

5-2 システム初期費

ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

- (1) 不陸整正（ICT）、下層路盤（車道・路肩部）（ICT）、上層路盤（車道・路肩部）（ICT）

対象機械：モータグレーダ
623,000円/式

5-3 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積上げるものとする。

5-4 3次元出来形管理・3次元データ納品及び外注経費等にかかる費用

3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における経費の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。

- ・共通仮設費率補正係数 : 1.2
- ・現場管理費率補正係数 : 1.1

※小数点第3位四捨五入2位止め

なお、路盤工（ICT）において、経費の計上が適用となる出来形管理は、以下の（1）～（3）又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理に準じた出来形計測とする。なお、その他の出来形管理の経費は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。

- (1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- (2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- (3) 上記（1）又は（2）に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理

③ アスファルト舗装工

1. 適用範囲

本資料は、舗装工における基層・中間層・表層および縁石工におけるアスカーブに適用する。

1-1 適用できる範囲

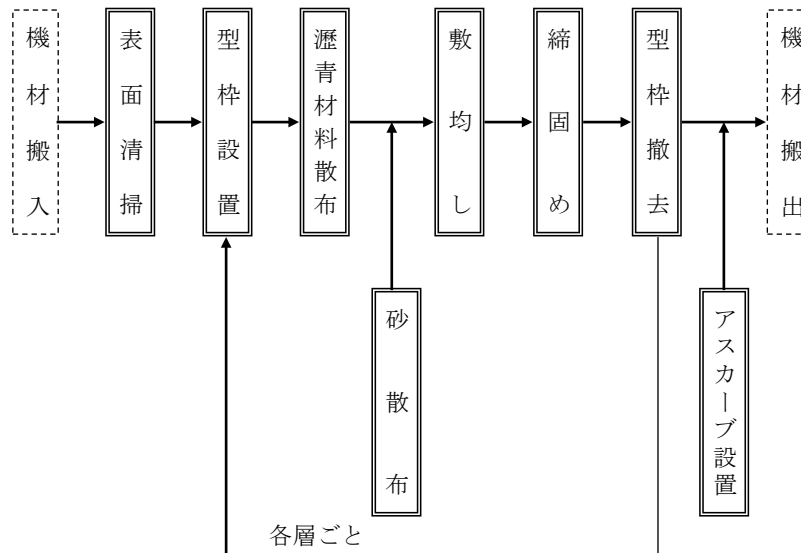
- (1) アスファルト混合物が購入方式の場合
- (2) 施工箇所が車道・路肩部で1層当たり平均仕上り厚が70mm以下の場合
- (3) 施工箇所が歩道部で1層当たり平均仕上り厚が70mm以下の場合
- (4) 断面積が125c㎡以上、300c㎡未満のアスカーブの場合

1-2 適用できない範囲

- (1) アスファルト混合物が現地プラント方式の場合
- (2) アスファルト混合物の締固め後密度が1.90t/m³未満、2.50t/m³以上の場合
- (3) 瀝青材料散布後に砂散布が必要な場合のうち、瀝青材料がプライムコート以外の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 瀝青材料がプライムコートの場合、砂散布の有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。

3. 施工パッケージ

3-1 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

平均幅員	1層当たり 平均仕上り厚	材料	瀝青材料種類
1.4m未満 (1層当たり平均仕上り厚50mm以下)	実数入力	(表3.2)	(表3.3)
1.4m未満 (1層当たり平均仕上り厚50mmを超え70mm以下)			
1.4m以上3.0m以下			
3.0m超			

- (注) 1. 上表は、車道・路肩部における基層、中間層又は表層のアスファルト混合物敷均し・締固め、アスファルト乳剤散布のほか、砂の散布、舗装用器具、補助機械、型枠材料、加熱燃料、瀝青材飛散保護等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含む。
2. アスファルト混合物の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.07)
3. 瀝青材料の材料ロスを含む。なお、標準使用量は、タックコートの場合43L/100m²、プライムコートの場合126L/100m²とする。
4. 面積=本線+すりつけ部+非常駐車帯とする。
5. 幅員にかかわらず機械施工が困難な場合は、平均幅員1.4m未満を適用する。

表3.2 材料

積算条件	区 分			
	アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m ³)	アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m ³)
材料	密粒度アスコン(20)	2.35	細粒度アスコン(13)	2.30
	密粒度アスコン(13)	〃	細粒度アスコン(13F)	〃
	密粒度アスコン(20F)	〃	細粒度キヤップアスコン(20F)	〃
	密粒度アスコン(13F)	〃	細粒度キヤップアスコン(13F)	〃
	密粒度キヤップアスコン(20)	〃	細粒度キヤップアスコン(5F)	〃
	密粒度キヤップアスコン(13)	〃	再生細粒度アスコン(13)	〃
	密粒度キヤップアスコン(20F)	〃	開粒度アスコン(13)	1.94
	密粒度キヤップアスコン(13F)	〃	各種 (1.90以上2.00t/m ³ 未満)	1.90以上2.00未満
	粗粒度アスコン(20)	〃	各種 (2.00以上2.10t/m ³ 未満)	2.00以上2.10未満
	再生密粒度アスコン(20)	〃	各種 (2.10以上2.20t/m ³ 未満)	2.10以上2.20未満
	再生密粒度アスコン(13)	〃	各種 (2.20以上2.30t/m ³ 未満)	2.20以上2.30未満
	再生粗粒度アスコン(20)	〃	各種 (2.30以上2.40t/m ³ 未満)	2.30以上2.40未満
	改質As 粗粒 AC-100(20)	〃	各種 (2.40以上2.50t/m ³ 未満)	2.40以上2.50未満
	改質As 密粒 AC-100(20)	〃		
	改質As 密粒 AC-100(13)	〃		
	改質As 密粒 I型(20)	〃		
	改質As 密粒 II型(20) DS3000	〃		
	改質As 粗粒 I型(20)	〃		
	改質As 粗粒 I型(20) DS3000	〃		
	改質As 粗粒 II型(20) DS5000	〃		
	改質As 再生粗粒 I型(20)	〃		
	改質As 再生粗粒 I型(20) DS3000	〃		
	改質As 再生粗粒 II型(20) DS5000	〃		

表3.3 瀝青材料種類

積算条件	区 分
瀝青材料種類	タックコート PK-4
	ブライムコート PK-3
	タックコート (各種)
	ブライムコート (各種)
	無し

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.4 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部) 代表機材規格一覧

平均幅員	項目	代表機材規格	備考	
1.4m 未満	機械	K1	振動ローラ（舗装用）〔ハンドガイド式〕 運転質量 0.5～0.6 t	
		K2	振動コンパクタ〔前進型〕 機械質量 40～60kg	
		K3	－	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	－	
	材料	Z1	再生粗粒度アスコン（20）	標準締固め後密度2.35t/m ³
			細粒度アスコン（13）	標準締固め後密度2.30t/m ³
			開粒度アスコン（13）	標準締固め後密度1.94t/m ³
			再生粗粒度アスコン（20）	標準締固め後密度 各種（1.90以上2.50t/m ³ 未満）
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
Z4	軽油 1.2号 パトロール給油			
市場単価	S	－		
1.4m 以上 3.0m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ〔ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型（2014年規制）〕 舗装幅1.4～3.0m	賃料
		K2	振動ローラ（舗装用）〔搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 運転質量3～4t	賃料
		K3	タイヤローラ〔普通型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 運転質量 3～4t	賃料
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	運転手（特殊）	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	再生粗粒度アスコン（20）	標準締固め後密度2.35t/m ³
			細粒度アスコン（13）	標準締固め後密度2.30t/m ³
			開粒度アスコン（13）	標準締固め後密度1.94t/m ³
			再生粗粒度アスコン（20）	標準締固め後密度 各種（1.90以上2.50t/m ³ 未満）
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	
Z4	－			
市場単価	S	－		
3.0m 超	機械	K1	アスファルトフィニッシャ〔ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型（2014年規制）〕 舗装幅2.3～6.0m	賃料

		K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量10t 締固め幅2.1m	賃料
		K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 運転質量13t	賃料
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	運転手 (特殊)	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度2.35t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度2.30t/m ³
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度1.94t/m ³
			再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.50t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z4	-		
	市場単価	S	-	

表3.5 表層(車道・路肩部) 代表機労材規格一覧

平均幅員	項目	代表機労材規格	備考	
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ(舗装用) [ハンドガイド式] 運転質量 0.5~0.6 t	
		K2	振動コンパクタ [前進型] 機械質量40~60kg	
		K3	—	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	—	
	材料	Z1	密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度2.35t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度2.30t/m ³
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度1.94t/m ³
			密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.50t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
Z4	軽油 1.2号 パトロール給油			
市場単価	S	—		
1.4m以上 3.0m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅1.4~3.0m	賃料
		K2	振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量3~4t	賃料
		K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t	賃料
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	運転手(特殊)	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	密粒度アスコン(20)	標準締固め後密度2.35t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度2.30t/m ³
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度1.94t/m ³
			密粒度アスコン(20)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.50t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	
Z4	—			
市場単価	S	—		
3.0m超	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅2.3~6.0m	賃料
		K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量10t 締固め幅2.1m	賃料

	K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 運転質量13t	賃料
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手 (特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度2.35t/m ³
		細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度2.30t/m ³
		開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度1.94t/m ³
		密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.50t/m ³ 未満)
	Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
		アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
Z3	軽油 1.2号 パトロール給油		
Z4	—		
市場単価	S	—	

3-2 基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.6 基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

平均幅員	1層当たり平均仕上り厚	材料	瀝青材料種類
1.4m未満 (1層当たり平均仕上り厚50mm以下)	実数入力	(表3.7)	(表3.3)
1.4m未満 (1層当たり平均仕上り厚50mmを超え70mm以下)			
1.4m以上			

- (注) 1. 上表は、歩道部における基層、中間層又は表層のアスファルト混合物敷均し・締固め、アスファルト乳剤散布のほか、砂の散布、舗装用器具、補助機械、型枠材料、加熱燃料、瀝青材飛散保護等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含む。
2. アスファルト混合物の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.10)
3. 瀝青材料の材料ロスを含む。なお、標準使用量は、タックコートの場合 43L/100m²、プライムコートの場合 126L/100m² とする。
4. 幅員にかかわらず機械施工が困難な場合は、平均幅員 1.4m 未満を適用する。

表3.7 材料

積算条件	区 分			
	アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m ³)	アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m ³)
材料	密粒度アスコン(20)	2.20	細粒度アスコン(13)	2.15
	密粒度アスコン(13)	〃	細粒度アスコン(13F)	〃
	密粒度アスコン(20F)	〃	細粒度キヤップアスコン(20F)	〃
	密粒度アスコン(13F)	〃	細粒度キヤップアスコン(13F)	〃
	密粒度キヤップアスコン(20)	〃	細粒度キヤップアスコン(5F)	〃
	密粒度キヤップアスコン(13)	〃	再生細粒度アスコン(13)	〃
	密粒度キヤップアスコン(20F)	〃	各種 (1.90以上2.00t/m ³ 未満)	1.90以上2.00未満
	密粒度キヤップアスコン(13F)	〃	各種 (2.00以上2.10t/m ³ 未満)	2.00以上2.10未満
	粗粒度アスコン(20)	〃	各種 (2.10以上2.20t/m ³ 未満)	2.10以上2.20未満
	再生密粒度アスコン(20)	〃	各種 (2.20以上2.30t/m ³ 未満)	2.20以上2.30未満
	再生密粒度アスコン(13)	〃	各種 (2.30以上2.40t/m ³ 未満)	2.30以上2.40未満
	再生粗粒度アスコン(20)	〃		

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.8 基層(歩道部)・中間層(歩道部) 代表機労材規格一覧

平均幅員	項目	代表機労材規格	備考	
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ（舗装用）〔ハンドガイド式〕 運転質量 0.5～0.6 t	
		K2	振動コンパクタ〔前進型〕 機械質量 40～60kg	
		K3	—	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	—	
	材料	Z1	再生粗粒度アスコン（20）	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			細粒度アスコン（13）	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生粗粒度アスコン（20）	標準締固め後密度 各種（1.90以上2.40t/ m ³ 未満）
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	プライムコートの場合 タックコートの場合
		Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
		Z4	軽油 1.2号 パトロール給油	
	市場単価	S	—	
1.4m以上	機械	K1	アスファルトフィニッシャ〔クローラ型〕 舗装幅1.4～ 3.0m	
		K2	振動ローラ（舗装用）〔搭乗・コンバインド式・超低 騒音型・ 排出ガス対策型（第3次基準値）〕 運転質量3～4 t	賃料
		K3	—	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	運転手（特殊）	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	再生粗粒度アスコン（20）	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			細粒度アスコン（13）	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生粗粒度アスコン（20）	標準締固め後密度 各種（1.90以上2.40t/ m ³ 未満）
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用 アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	プライムコートの場合 タックコートの場合
		Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	

表3.9 表層(歩道部) 代表機労材規格一覧

平均幅員	項目		代表機労材規格	備考
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ（舗装用） [ハンドガイド式] 運転質量 0.5～0.6 t	
		K2	振動コンパクタ [前進型] 機械質量 40～60kg	
		K3	—	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	—	
	材料	Z1	再生密粒度アスコン（13）	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			細粒度アスコン（13）	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生密粒度アスコン（20）	標準締固め後密度 各種（1.90以上2.40t/ m ³ 未満）
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z4	軽油 1.2号 バトロール給油		
市場単価	S	—		
1.4m以上	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [クローラ型] 舗装幅1.4～3.0m	
		K2	振動ローラ（舗装用） [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・ 排出ガス対策型（第3次基準値）] 運転質量3～4 t	賃料
		K3	—	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	運転手（特殊）	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	再生密粒度アスコン（13）	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			細粒度アスコン（13）	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生密粒度アスコン（20）	標準締固め後密度 各種（1.90以上2.40t/ m ³ 未満）
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z4	—		
市場単価	S	—		

3-3 アスカーブ
 (1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.10 アスカーブ 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

断面積	材料
125cm ² 以上140cm ² 未満	(表3.11)
140cm ² 以上155cm ² 未満	
155cm ² 以上175cm ² 未満	
175cm ² 以上195cm ² 未満	
195cm ² 以上215cm ² 未満	
215cm ² 以上235cm ² 未満	
235cm ² 以上255cm ² 未満	
255cm ² 以上280cm ² 未満	
280cm ² 以上300cm ² 未満	

- (注) 1. 上表は、アスカーブ設置のほか、瀝青材料、瀝青材料の散布及び加熱燃料等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む。）を含む。
 2. アスファルト混合物の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.09）

表3.11 材料

積算条件	積算条件
材料	細粒度 アスコン(13)
	細粒度 アスコン(13F)
	再生細粒度 アスコン(13)
	再生細粒度 アスコン(13F)
	各種（締固め後密度2.10 t/m ³ ）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.12 アスカーブ 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2t 積級	タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む
	K2	アスファルトカーバ[ガソリンエンジン駆動式] 能力4.0~4.5m ³ /h	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	運転手（一般）	
材料	Z1	再生細粒度アスコン（13）	
	Z2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

④ 踏掛版

1. 適用範囲

本資料は、踏掛版工における踏掛版に適用する。

1-1 適用できる範囲

- (1) 現場打ちの踏掛版の設置
- (2) 厚さ0.35m以上0.6m以下の場合

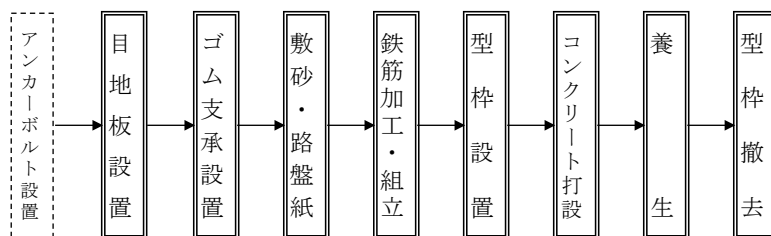
1-2 適用できない範囲

- (1) プレキャスト踏掛版の設置
- (2) 主たる鉄筋が太径鉄筋（D38以上D51以下）の場合

2. 施工概要

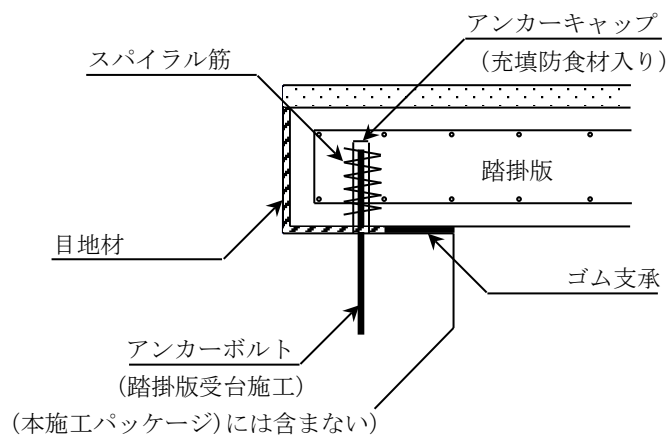
2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 縦目地、横目地、養生の有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。



踏掛版受台部側面図 (参考図)

3. 施工パッケージ

3-1 踏掛版

(1) 条件区分

踏掛版の条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 踏掛版 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

コンクリート 規格	鉄筋量	ゴム支承の 有無	鉄筋材料 規格・径
(表3.2)	0.08t/m ³ 以上0.10t/m ³ 未満	有り	(表3.3)
		無し	
	0.10t/m ³ 以上0.12t/m ³ 未満	有り	
		無し	
	0.12t/m ³ 以上0.14t/m ³ 未満	有り	
		無し	
	0.14t/m ³ 以上0.16t/m ³ 未満	有り	
		無し	
	0.16t/m ³ 以上0.18t/m ³ 未満	有り	
		無し	
	0.18t/m ³ 以上0.20t/m ³ 未満	有り	
		無し	
	0.20t/m ³ 以上0.22t/m ³ 未満	有り	
		無し	
	0.22t/m ³ 以上0.24t/m ³ 未満	有り	
		無し	
0.24t/m ³ 以上0.26t/m ³ 未満	有り		
	無し		
0.26t/m ³ 以上0.28t/m ³ 未満	有り		
	無し		
0.28t/m ³ 以上0.30t/m ³ 未満	有り		
	無し		
0.30t/m ³ 以上0.32t/m ³ 未満	有り		
	無し		
0.32t/m ³ 以上0.34t/m ³ 未満	有り		
	無し		

(注) 1. 上表は、コンクリート、型枠、鉄筋、目地材、ゴム支承、スパイラル筋、アンカーキャップ、充填防食材、縦・横目地、養生(一般養生、特殊養生(ジェットヒータ、練炭))、路盤紙、敷砂等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含む。

2. アンカーボルトは踏掛版受台にて施工されるため含まない。

3. 鉄筋量は、踏掛版1箇所当たりの鉄筋量とする(スパイラル筋は含まない)。

4. 路盤材の敷設は含まない。

5. 複数の鉄筋材料規格・径を使用する場合は、主たる規格を選択すること。

6. 鉄筋・コンクリートの材料ロスを含む。標準ロス率は、鉄筋が+0.03、コンクリートが+0.03とする。

7. 積算条件区分の鉄筋量は、ロスを含まない設計量とする。

表3.2 コンクリート規格

積算条件	区分
コンクリート規格	21-8-25(20)(普通)
	21-12-25(20)(普通)
	24-8-25(20)(普通)
	24-12-25(20)(普通)
	27-8-25(20)(普通)
	27-12-25(20)(普通)
	30-8-25(20)(普通)
	30-12-25(20)(普通)
	40-8-25(20)(普通)
	40-12-25(20)(普通)
	18-8-40(普通)
	18-12-40(普通)
	19.5-8-40(普通)
	19.5-12-40(普通)
	21-8-40(普通)
	21-12-40(普通)
	22.5-8-40(普通)
	22.5-12-40(普通)
	24-8-40(普通)
	24-12-40(普通)
	4.5-2.5-40(普通)
	21-8-25(20)(高炉)
	21-12-25(20)(高炉)
	24-8-25(20)(高炉)
	24-12-25(20)(高炉)
	19.5-5-40(高炉)
	19.5-8-40(高炉)
	19.5-12-40(高炉)
	18-5-40(高炉)
	21-5-40(高炉)
	18-8-40(高炉)
	18-12-40(高炉)
	21-8-40(高炉)
	24-8-40(高炉)
	24-12-40(高炉)
	21-12-40(高炉)
	40-8-25(早強)
	40-12-25(早強)
	21-8-25(早強)
	21-12-25(早強)
	24-8-25(早強)
	24-12-25(早強)
	18-8-25(高炉)
	18-12-25(高炉)
	21-5-80(高炉)
18-3-40(高炉)	
21-3-40(高炉)	
各種	

表3.3 鉄筋材料規格・径

積算条件	区分
鉄筋材料規格・径	SD295 D10
	SD295 D13
	SD295 D16
	SD345 D10
	SD345 D13
	SD345 D16～D25
	SD345 D29～D32
	SD345 D35
各種	

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.4 踏掛版 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力90～110m ³ /h	
	K2 ー	
	K3 ー	
労務	R1 普通作業員	
	R2 型わく工	
	R3 土木一般世話役	
	R4 特殊作業員	
材料	Z1 生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C55%	
	Z2 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	
	Z3 ゴム支承 コンクリートヒンジ用緩衝ゴム SBR 単層10mm	ゴム支承有りの場合
	Z4 軽油 パトロール給油	
市場単価	S 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	